

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520124

研究課題名 (和文) 上代文学における漢字使用の総合的研究

研究課題名 (英文) The whole research on “漢字” use in Ancient Japanese Literature

研究代表者

村田 右富実 (MURATA MIGIFUMI)

大阪府立大学 人間社会学部・教授

研究者番号：30244619

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：万葉集、古事記、日本書紀、風土記、漢字、上代文学

### 1. 研究計画の概要

本研究は、文学研究へのコンピュータ利用の強い要請がありながらも、なお足踏み状態にある現状を、これまでとは別の観点から打開することを目的とし、上代文学作品全体を俯瞰的な立場から、その文字理解を進めるものであり、次に記す四点からなる。

- (1) デファクト・スタンダードとなるテキストファイルを構築する。
- (2) 複数の作品のテキストファイルに共通する外字を策定して、作品を横断しての文字研究を推進する。
- (3) それぞれの作品に特徴的な漢字を抽出し、静態論的把握を行い、これを他作品へも適用し一般化する。
- (4) 上代文学の文字使用における統合的なモデルを構築し、上代漢字使用層の全体像を明らかにする。

### 2. 研究の進捗状況

ここまで、デファクト・スタンダードとなるユニコードにのっとりたテキストファイルの構築は順調に進んできている。すでに『万葉集』については完成したテキストファイルを利用した研究発表を行っている。『古事記』、『日本書紀』、『風土記』についても初校が終了している。さらに当初の予定には入れていなかった「続日本紀宣命」についても、初校が終了している。ただし、膨大な数に上る異体字の処理とユニコードに含まれない外字の処理は、なお困難な状況にある。

また、このテキストファイル構築の過程で、これまでに存在しなかったワンセンテンス毎の改行によるテキストファイルも構築が進んでおり、最終年度である2009年度に

は完成する予定である。

一方、これまで得られた最大の研究成果は、学会誌「万葉」に掲載予定 (アクセプト済み、校了) の「カイ二乗検定を用いた万葉短歌の声調の分析」といってよかろう。文学研究に多変量解析の手法を導入すること自体、これまでにない研究方法であるが、それを万葉短歌に適用し、感覚としてしか理解されていなかった短歌声調を外在化させることに成功した。

また、テキストファイルによる精緻な用例調査は、廣川晶輝氏との共著『南大阪の万葉学』(2007)、「万葉集巻九の配列について」(「美夫君志」74号/2007)、「万葉集巻一後半部 (五四～八三番歌) の配列について」(「万葉語文研究」3号/2007) として結実している。特に「万葉集巻九の配列について」は、テキストファイルの利用を前提に論を組み立てており、テキストファイルの裨益するところ大であった。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

テキストファイルの構築は当初の予定以上に進み、予定に入れていなかった「続日本紀宣命」のテキスト化も終了している。しかし、その一方、異体字についての文献間ネットワークの構築は、ユニコードの取り扱いとともに若干の遅滞があると認めざるをえない。以上の点から、「②おおむね順調に進展している」と自己評価した。

### 4. 今後の研究の推進方策

上代文学の各作品ともに文字列の校正はほぼ終了しており、ワンセンテンスを1行と

したテキストファイルの構築が目下の課題である。それとともに、作品間の異体字ネットワークの作成が急がれるが、これは、まとまった時間が必要なため、夏期休暇をこれに当てるべく考えている。

本年度後期は本研究の集大成の時期でもあり、古事記、日本書紀を対象として、多変量解析を用いた研究を行う予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 村田右富実、「カイ二乗検定を用いた万葉短歌の声調の分析」(「万葉」204号、23-41、2009)、査読有
- ② 村田右富実、「筑前国の志賀の白水郎の歌十首について」(「美夫君志」76号、18～32、2008)、査読有
- ③ 村田右富実、「万葉集巻一後半部(五四～八三番歌)の配列について」(「万葉語文研究」3号、11～36、2007) 査読有
- ④ 村田右富実、「人麻呂の挽歌—表現史の中の人麻呂—」(「高岡市万葉歴史館叢書」19号、48～74、2007)、査読無
- ⑤ 村田右富実、「『天皇の崩ります時に、大後の作らず歌一首』について」(『初期万葉論』、316～335、2007)、査読有
- ⑥ 村田右富実、「万葉集巻九の配列について」(「美夫君志」74号、43～62、2007)、査読有

[学会発表] (計 2 件)

- ① 村田右富実、「神亀四年正月の雷鳴——6・九四八～九四九番歌について——」、上代文学会全国大会、日本女子大学、2007年11月
- ② 村田右富実、「筑前国志賀白水郎歌十首について」、美夫君志会全国大会、中京大学、2007年07月

[図書] (計 1 件)

- ① 村田右富実、廣川晶輝『南大阪の万葉学』(2007)